

ZOOM▶

写真劇場

心つかむ幻の女^{ひと}エッセー 須磨久善^{すまひさよし} 写真 大出一博^{おおいでかずひろ}

一人っ子だった私は、幼いころから部屋にこもって本を読むのが好きだった。初めて読んだ長編小説、そして今なお最も心ひかれる物語は「宮本武蔵」。剣の道一筋に生きる孤高の男。群れをなして襲いかかる敵に己ひとりで立ち向かい、生涯最大の宿敵をも打ち負かす。そのカッコよさは少年の心を驚かすほどに魅了した。その影響もあってか、少年は刀をメスに持ち替えて外科医となった。ひとつ残念なのは二刀流ができないことだ。両手にメスを握った外科医など危なすぎる。

もうひとつ、心から離れないのがお通さん。お寺育ちの孤児で冷めた孤独と燃える情熱をあわせ持つ美女。一途な想いをかたく守る古風な女。いったいどんな女なんだろう？ 少年時代から還暦を過ぎるまで、私の心はその偶像を探り続けている。映像に登場するお通さんは、古くは轟夕紀子、八千草薫、入江若葉、そして松坂慶子から米倉涼子へと受け継がれているが、私の心にはいまだにズドンと響いてこない。実在しないお通さんの実像を求めることがそもそも無理なことなのかもしれない。

お寺の扉に寄りかかって、誰かを待っている様子のこの女性。黒髪と黒い瞳に着物姿が美しい。きっと誰かにとってのお通さんなのだろう。